

3 「次代の産業を担う人づくり」の在り方・方策

(1) 県内の人的・物的資源を活用した教育指導の充実

生徒に実際の職場でより実践的な学習を体験させることは、学習意欲が高まるとともに、校内で学習した知識と技術の統合化や、生きた知識、技術及び技能の習得に極めて有効である。このため、産業界との連携を一層強化し、専門性の向上を図る。

地域の人的・物的教育資源を活用するため、各地域のインターンシップ等の受入企業や専門的な知識、技術及び技能の習得に活用できる外部講師の人材リストを作成すること。

教員が産業及び産業界の動向や企業の求める人材像等について理解を深めるため、企業等の行う人材育成や自己啓発の研修等への参加や、教員の研究発表会等に企業関係者を招いたりする機会を設けること。さらに、企業の関係者等を指導者として学校に招へいし、学校施設等を利用した教員の研修を行うことができる機会を設けること。

インターンシップ等の受入企業のリスト等を活用し、企業等において実習を行ったり、県の各部局で企業等を対象に実施している事業に積極的に参加するなど、生徒が最先端の技術に触れたり、各専門分野の専門家から直接指導を受けることができる機会を拡充すること。

日本版デュアルシステム³については、学科の教育内容や生徒、産業界等の実態を十分考慮しながら導入を検討することが大切である。なお、導入に当たっては各学校において、生徒の進路希望、企業のニーズ等について十分な調査を行うとともに、導入に向けた検討会議等を設け、産業界と学校が十分に連携を図った上で実施することが大切である。

インターンシップ等の体験的な学習活動の実施に当たっては、専門的な

³ 日本版デュアルシステムとは、企業での実習と学校や訓練機関での座学を組み合わせることで、若者を一人前の職業人に育てる仕組みのこと。

知識，技術及び技能の習得だけでなく，勤労観・職業観を育成するとともに，地域に誇りを持たせたり，地域貢献の意識を涵養したりするなど，明確なねらいを持った内容となるよう学校と事業所とが綿密な連携を図ること。

人材リスト等を活用し，専門教育に係る高度な資格や知識，技術及び技能を持った外部講師の活用による授業等を拡充すること。

企業で行われている新入社員研修のカリキュラムの一部を高等学校のカリキュラムに導入し，職業生活へ円滑に移行できる体制を構築すること。

その際，教員と企業の社員教育担当者がチームを組んで授業を行うティーム・ティーチングが有効である。

また，生徒に大学や研究施設，企業等で最先端の知識や技術に触れさせることは，学ぶ意欲が高まると同時に，専門的な知識，技術及び技能を習得させるのに極めて有効であり，こうした取組みを進めるための関係機関との連携をさらに推進する必要がある。

独立行政法人科学技術振興機構におけるS P P事業(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業)などに取り組むことによって，様々な最先端の研究成果や研究施設・実験装置等を有する大学，公的研究機関，民間企業等と高等学校との連携を深めること。

大学等及び専門高校・専門学科が有する施設・設備を活用し，実践研究(「課題研究」)に取り組むことにより，生徒の科学技術等に関する興味・関心や知的探究心等を高めること。また，学会等に参加する機会を設けることにより，最先端の研究発表に触れる場を与えること。